

茨歯発第 143 号

令和 8 年 8 月 3 日

茨城県歯科衛生士会長 岩村 昌子 様

茨城県歯科医師会

会長 榊 正 幸

(印章省略)

介護保険講習会について

猛暑の候、貴殿益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、この度本会では、介護保険事業の一環として、標記講習会を下記により開催することとなりましたのでご案内申し上げます。多数の方のご参加をお待ちしております。

記

1. 日 時 令和 8 年 11 月 8 日（日）10 時～12 時
2. 場 所 つくば市民センター 3 F 大会議室
つくば市吾妻一丁目 10 番地 1（つくばセンタービル・コリドイオ内）
TEL 029-855-1171
3. 演題・講師 「訪問介護における『食べる』の課題と実践的対応」
東京科学大学大学院 摂食嚥下リハビリテーション学分野 講師
山口 浩平 先生
4. 対 象 者 医療・介護従事者
5. 定 員 70 名 ※定員内でお入りいただける場合は、とくにご返事は差し上げません。
6. 受 講 料 無料
7. 申 込 方 法 下記 URL 又は QR コードからの申込フォームで、10 月 28 日（水）までにお申し込み下さい。こちらでのお申し込みが難しい場合は、本会事務局（029-252-2561）までお問い合わせください。

URL <https://x.gd/LFk5U>

QR コード



【講演抄録】

「訪問介護における『食べる』の課題と実践的対応」

義歯が痛い、と言われた時に、義歯の状態のみならず、お食事の具合はいかがですか、と伺っているだろうか。超高齢社会で歯科に求められる「口腔機能低下症」と「摂食嚥下障害」の整理をする上で、その臨床操作が歯の欠損への対応か、その先にある「活動」や「参加」まで含めた対応か、と言う視点は重要である。口腔機能低下症や摂食嚥下障害への対応に苦慮される場合、その一因としてリハビリテーション視点の欠如が挙げられる。例えば、水がむせると相談された時に、歯科治療や訓練だけではなくて、水分のとりみづけを指導する方が有効な場合もある。WHOが開発したICF（国際生活機能分類）を用いながら、口腔機能低下とは何か、摂食嚥下障害やリハビリテーションとは何か、をご参加いただく皆さまと整理しながら、日々の臨床に活かせる視点と対応をまとめてみたいと思う。

講師紹介

東京科学大学大学院
摂食嚥下リハビリテーション学分野 講師
山口 浩平 先生



【ご略歴】

2012年 東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業
2019年 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 高齢者歯科学分野卒業
2021年 東京医科歯科大学病院 摂食嚥下リハビリテーション科
特任助教・医局長
2022年 東京医科歯科大学大学院 摂食嚥下リハビリテーション学分野 助教
2023年 同上 講師
2024年 東京科学大学大学院 摂食嚥下リハビリテーション学分野 講師

【資格】

博士（歯学）

日本老年歯科医学会 専門医・摂食機能療法専門歯科医師・認定医

日本栄養治療学会 認定歯科医師

日本摂食嚥下リハビリテーション学会 認定士